

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 チーム「G-MO」

テーマ「オリジナル教材コンテンツの作製～UDLの視点から～」

取組のポイント・成果

◎取組の内容とポイント

本グループでは、障がいの多様化、重度・重複化障がい児の増加により、求められる教職員の専門性が多岐にわたる中で、UDL（学びのユニバーサルデザイン）の視点を共通の認識として研修や製作、実践を行った。また、教材のアイデアや使い方を共有し、オンライン学習にも有効な教材コンテンツとなることを目指して取り組んだ。

○研修①（自主研修）「発達水準から教材を考える」

内容：奈良養護学校の実践を書籍とインターネットサイト、過去に研修で訪れたことのある教員の話から学ぶ機会を設けた。奈良養護学校では、自立活動の教材を「感覚と運動の高次化理論」の発達水準の考え方にに基づき、教材を整理し、またそれを共有ネットワークTMSNとしてデータベース化されている。アセスメントを行い、その児童生徒の発達に適した教材を製作することや整理することは共通の認識として改めて考える機会となった。

参考書籍：『誰でも使える教材ボックス～教材共有ネットワークを活かした発達支援』
高橋 浩 著 学苑社

参考URL：<http://www.narayogo.jp.org/>

○研修②（オンライン研修）「ICTの活用と教材コンテンツのポイント」（R3.8.2）

講師：NPO法人 支援機器普及促進協会 高松 崇 様

内容：ICTの活用と教材コンテンツの作製について、事前に参加者の質問を集約し、従来の講義型の研修ではなく、1問1答方式の学びの場とした。GIGAスクール構想により、1人1台タブレットの環境となり、当校では積極的に持ち帰りの機会を設けているが、学校での学びと家庭での学び、そして将来的な活用につなげていくことのポイントを教えていただくことができた。また、校内で共有するために適したアプリケーションやNASの活用についても知ることができた。

○研修③（自主研修）「パネルシアターの製作と演じ方」

内容：（オンライン研修から校内自主研修に変更）購入したPペーパーで「ねこのおいしゃさん」「はらぺこあおむし」「おべんとうバス」「くいしんぼうゴリラ」「さかながはねて」などを製作した。また、保育園での勤務経験のある教員から演じ方を学び、さらに撮影した動画を児童生徒の学びと教員の研修のためのコンテンツとした。



【パネルシアター研修】



【動画コンテンツ撮影】



【パネル作成の一例】

○研修④ (研修)「ATACカンファレンス2021京都」

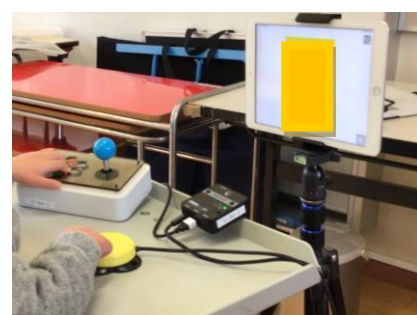
→オンライン研修に変更となり、日程の関係で研修への参加を見合わせた。

○研修⑤ (自主研修)「オリジナル教材 (iPad) の作製と周辺機器」

内容：児童生徒の興味・関心のある教材として **Keynote** を使って音声を入れた絵本教材や学習教材を作製した。また、重複障がい学級教員向けのアクセシビリティやスイッチインターフェースの研修も行い、児童生徒の手指機能や操作に応じた活用について実践を紹介した。



【研修の様子】



【研修を活かしての実践】

今後の課題

【課題】

- ・オリジナル教材を整理・収納していくための共有スペースの確保。
- ・著作権の問題をクリアした動画コンテンツを保存しておくサーバーや家庭学習での運用方法。

【還元方法】

- ・他職員に向けてオリジナル教材や動画コンテンツの紹介や実践を報告する。